

翫草 4 (卷百三、卷百三十二) 〓 神沢杜口

22

日本隨筆大成

第三期

吉川弘文館

日本随筆大成 第三期 第十二卷

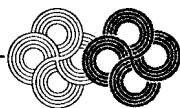
昭和六年三月五日発行

編纂者 日本随筆大成編輯部

代表 早川純三郎

発行者 桜井庄吉

発行所 日本随筆大成刊行会



日本随筆大成

〈第三期〉22

昭和五十三年五月二十五日 印刷
昭和五十三年六月 十日 発行

編者 日本随筆大成編輯部

発行者 吉川圭三

発行所 株式会社 吉川弘文館

〒113 東京都文京区本郷七丁目二番八号
電話東京八一三一九一・五一（代表）
振替口座東京〇一一四四番

製作 株式会社 たんちょう社

目次

翁

草

(卷之百三、卷之百三十二).....

一

(解題 北川博邦 小出昌洋)

初学

目次

卷之百三

信州浅間焼の事

序言 高崎町藤屋某女の記

跋文

二五

関東洪水の事

天明六年七月江戸洪水のありさま

水難の村名 水難諸州図

二四

卷之百四

名香紅塵の噂

清水某の利鼻 仁和寺坊官の遊

蕩

鉢坊主の長寿

世をはかなみて断食す 餅と浴

湯とに精神を一変す

鍛冶近江守の言

古今の刀の作りやう 村正の刀

正宗村正を弟子とす 奥州長左

衛門鑑定の説

元

使者の鹿相

村上等詮 刀を持せ歩く 俳

土吟松 二本道具

元

謡曲の鹿相

進藤権右衛門 謡文句の胴忘れ

及び覚え違ひ

三

知 足

其蛸自伝

京大坂の風俗

男女頭髮衣服の流行姿 その沿

三

二四

二五

二六

革 京都人の薄情 祇園町

祇園燈籠 北野 平野 内

野 二条新地 七条新地

真葛原 下河原 今古趣味の

変遷 風俗世を逐て下落す

卷之百五

丙午之凶歳

丙午に付ての間答

享保年間洛俳諧の噺

吟花堂晩山以下俳人 前句付三

笠附の禁 淡々新に俳点を起す

卷之百六

享保年間洛俳諧の噺 続

竜谷 隆志 可令 釣雪

瓢水 鬼貫 蜂房 孟遠

祇空 巴人 几圭 吞鯨

あだし草

閑院宮の再興 長岡天神 人

の出世 系図 東山辺の碑石

心中 人の一生 がるとくさ

きと

罫

俳風大に起る 淡々圭との軋轢

淡圭の訴訟 淡々の賀筵 淡

々の死 淡々の評 長田越州

より淡々におくれる書 御射山

羅人

罫

罫

楓川 魚川 貞扇 羽紅

角上 乙澄 路通 雅因

蕪村 仏庵 万翁 男鈴

玉くしげの伝

卷之百七

飛鳥井雅章卿吉野の記

三

冷泉民部卿嵯峨遊覧の記

七

卷之百八

田沼家一変

六

切腹

申渡数件

田沼遭害の

田沼の系図 佐野善左衛門殿中
にて田沼山城守を斬る 佐野の

原因 佐野系図 遭難の間の
図

卷之百九

朔旦冬至

一〇五

田沼家衰微

二二

光格天皇御宇賀表持参次第及び賀
表

田沼山城守の出世驕奢 同主殿
頭の登庸 浚明院の薨去 主

白鳥

一〇七

殿頭の免職 城地被召上 徳
川氏初政以来の寵臣

天明六年十二月山科郷にて白鳥見
はる 白鳥の勘文数通

卷之百十

田氏罪案

一三

田沼主殿の不正 幕政の不振

田沼罪惡の申渡条々

山崎闇斎の説

盍徹問答

一三〇

卷之百十一

御当家御歴代年記

一三五

裏図

八省院図

豊楽院図

東照公より家斉公に至る誕薨將軍

雜話

一四〇

宣下の年月表

孝子

売茶翁

表太

浚明

大内裏略図

一三七

公贈官位の記

東京西京

京師豎横条路

内

(卷之百十一末より卷之百十四まで「新安手簡」今除く)

卷之百十五

家斉公將軍宣下式

一五二

能

勅使下向

將軍答礼

御祝儀

卷之百十六

諸国飢饉

一五七

天明丙午国々の困窮

窮民米屋

曲淵江戸町奉行の転役

石河土

を襲ふ

救米以下度々の令達

佐守新に江戸町奉行となる
聖徳を仰慕して四方の臣民京都に上

り御所の築池を廻りて之を拝す
四宝銀 播州林田騒動 肥後

卷之百十七

雑話

伊勢拔参

信州諏訪家騒動

大石良雄山科仮栖の碑

多賀城壺碑

上州多胡碑

筑前宗像堅石

鉢植の松

卷之百十八

雑話

秀吉公真蹟

石川丈山伝

山州矢脊の事

七月十六日山々の火

熊本騒動 松平定信侯の入閣

吉原松葉屋瀬川身請

近世奢超過の沙汰

流人の話

懸命の話

本阿弥話

人に倭有る事

広沢のいろは仮字の文

賀茂やすらひ祭

太秦牛祭

空也躍念仏

塩尻記拔萃

苗字 保元物語の作者 義朝

二〇七
二〇七
二〇七
二〇九
三〇

一九二
一九二
一九二
一九三
一九三
一九六

一九六
一九九
二〇一
二〇三
二〇四
二〇四
二〇五

二三
二三
二四
二五

論 空保物語の詞二三 楠正

成織田信雄及び真田信繁の訓

吉野の麓姨ヶ峰河合南帝二宮の旧

跡 白河院兒童を愛し給ふ

名古屋の南方けぬき 書画に齡

をかく 吉川惟足の歌凶瑞とな

卷之百十九

古学先生和歌集伊藤仁斎

三三

四季雜及送防州太守水野公序

卷之百二十

雜話

山門修復中相川又四郎の乱心及び

恠異の咄

松平新太郎少将

文屋康秀の歌

今川了俊の歌

近世一揆の事

斎藤大納言

る 宇治橋 酒顛童子 侍

の礼服 士は廉直を尚ぶべし

光秀濃州に匿る 丈山の詩

織田始祖平資盛の歌 後土御門

の崩御及朝廷の衰頽

鳥仏師

千里裂

永楽錢

正月饌具

織田信雄

名古屋山三

秀吉公母堂大政所

最明寺入道の歌

二六〇

二六〇

二六〇

二六〇

二六〇

二六〇

二六二

二六二

二六二

二六二

二六二

二六二

二六二

雑 話

卷之百二十一

奏者の号	二六三	正月万歳唱歌	二六五
道場法師	二六三	桜井元佐	二六五
駅路の一里塚	二六三	貝寄風	二六六
服部半蔵	二六四	生類数種	二六六
斎藤工藤加藤	二六四	大友義鎮の歌	二六六
書名外題	二六四	西丸世子御歌	二六七
影 像	二六四	東照権現御遷座の記	二六七

官女勇力	二七三	好きに赤烏帽子	二八三
広幡家始祖	二七三	足利の衰廃	二八三
市場殿	二七三	能太夫宮千代丸	二八七
萱野三平墓銘	二七三	福一建業	二八七
天野孫七郎	二七五	禁裏衰廃	二八七
有親親氏并先祖の事	二七六	印本鬼形	二八八
小野道風	二七七	木曾の御坂	二八八
一里塚	二七六	伊奈備前守	二八八
宗良親王和歌	二七六	関鍛冶の祖	二八九
		甲陽軍鑑	二八九

香典

二九〇

靈陽院義昭

二九三

神君十六將

二九〇

淀殿

二九三

祖孫系

二九〇

盲人五派

二九三

本願寺濫觴

二九一

楠氏略系

二九四

神君歷任考

二九二

中古勸進能

二九五

斯波家亡

二九三

卷之百二十二

雜話

江戸千両屋敷

二九六

享保九年大坂大火并京大坂風俗

二九七

日銭貸

三〇〇

五条橋詰蕎麦切屋并人形屋

三〇八

本朝古戦暦考并異朝年号

三〇一

土風のおとろへ

三〇〇

冒他姓論

三〇三

後醍醐帝皇后の御号

三〇〇

足袋御免并古書目録

三〇三

足利家裔孫

三〇〇

明智光秀の事

三〇五

是の字

三一

古記の説

三〇五

新田義助の感状并に花押

三一

〔卷之百二十三より卷之百二十四に至る「鳩巢小説」今除く〕

卷之百二十五

雑話

筆の跡

三五

盲人旅宿

三三

臼井与右衛門

三五

江府御徒目付
小普請組、公卿、乞食、公武風俗

三三

石河土佐守

三六

の衰廃

三三

東武来状

三七

三里灸

三六

御書付之写

三九

七十の賀歌

三六

諸芸心持

三〇

権貴の噂

三七

卷之百二十六

雑話

祇園御旅の榎

三元

関寺小町
近世人情

三四

怪異

三〇

牛込敵打

三六

迷子札

三三

大老職

三七

生涯盛

三三

御買米謀計於評定所判決

三七

実陰公の像

三三

近年人事の変

三四

辻能

三三

長岡天神

三四

卷之百二十七

白川侯著述

三七

国本論
鸚鵡言

卷之百二十八

白川侯著述

三九

資治清要

卷之百二十九

三王外記補註 一

三九

く 弘文院の創立 殺生禁断

常憲公記 堀田正俊の横死

犬を愛す 聖堂講筵

越後騒動 知足院僧隆光寵を受

卷之百三十

三王外記補註 二

三九

葵祭及六孫王祭再興 鑄錢

常憲公記 柳沢邸に臨む 松

陵墓修理 寛永寺修造

蔭日記の文 人才登庸 賀茂

卷之百三十一

三王外記補註 三

四七

侯の貶亡及増秩 柳沢の出身及

常憲公記 大地震大火災 鑄

謀略 常憲公の死に付ての説

錢 富士噴火 当代に於る諸

卷之百三十二

三王外記補註 三の続

憲公論 文昭公記 呪詛

間部詮房の出身 柳沢を退く

護持院が原 前代の弊政を革む

四三

朝鮮人来聘 新井白石の登庸

薨去 有章公記 月光夫人

章公薨去